

研究指導の概要

■心理学学位プログラム

【課程：博士後期課程】

学年	学期 モジュール		研究内容及び指導方法等
1 年 次	春	A	1. 研究体制の基礎固め ・ 新入生オリエンテーションに出席し、心理学学位プログラム（後期）の人材養成目的、3ポリシー、標準的学修過程、修了要件、獲得すべきコンピテンス、学修成果の指標、博士論文審査プロセス（構想審査、中間審査、予備審査、本審査）を理解する ・ 研究テーマ、副指導教員を指導教員と話し合って決め、学位プログラムに報告する ・ 入学時コンピテンス自己評価を実施し、指導教員と認識を共有する ・ コンピテンス自己評価を踏まえて、初年度の科目履修計画を立てる 2. 研究活動の開始 ・ 心理学特別研究D1を履修し、博士論文の研究を開始する ・ 指導教員と相談の上、修士論文の研究の学会発表・研究誌投稿を計画・実行 ・ 論文博士の研究テーマに関する文献収集とレビューの実施 ・ 内外の学会での研究発表の計画立案と実施 ・ 大学院生版Researchmapへの登録
		B	3. 授業の受講による研究スキルの獲得(博士課程全期間) ・ 心理学実験実習の履修により、心理統計の基礎を確認するとともに心理学類生に教える技能を獲得する ・ 心理学英語プレゼンテーション1、心理学先端研究2、心理基礎科学英語1・2の履修により、英語による心理学研究の発信能力を高める ・ 心理学研究マネジメント実習1の履修により、心理学類生を指導して心理学の調査や実験を行い、グループでの研究を推進するうえで必要な研究遂行・マネジメント能力を獲得する
	C	4. 日本学術振興会特別研究員(DC1)への応募（5月頃） 5. 博士論文第1回予備審査(4～5月頃)へのオブザーバー参加 9月修了者向けの予備審査会 完成された博士論文の全体構成や、審査の観点等について学ぶ	

学年	学期 モジュール		研究内容及び指導方法等
1 年 次	秋	A	1. 博士論文の研究の遂行 ・研究計画の立案、研究倫理審査、データ収集と分析、結果についての考察の実施、学術雑誌への投稿 ・内外の学会での研究発表 2. 博士論文構想発表会(11月頃) ・博士論文の構想についてプレゼンテーションを行い、審査を受ける
		B	3. 博士論文中間発表会のオブザーバー参加(11月頃) ・標準2年次生対象の中間発表会にオブザーバー参加し、博士論文全体の構成や作成過程、中間審査の観点について学ぶ 4. 第2回・第3回博士論文予備審査会のオブザーバー参加(9～12月頃) ・標準3年次生対象の予備発表会にオブザーバー参加し、博士論文全体の構成や作成過程、予備審査の観点について学ぶ
		C	5. 博士論文本審査会のオブザーバー参加(12月～1月頃) ・標準3年次生対象の本審査会にオブザーバー参加し、完成された博士論文全体の構成や、審査の観点などについて学ぶ
2 年 次	春	A	1. 2年次の研究体制の確立 ・在学生オリエンテーションに出席し、心理学学位プログラム（後期）の2年次の標準学修過程、中間審査会等について確認する 2. 進級時達成度評価を実施し、これに基づいて2年次の履修計画を立て、必要な科目を履修する
		B	心理学英語プレゼンテーション2、心理基礎科学英語2の履修による国際学会での発表スキルの獲得 心理学研究マネジメント実習2の履修による、グループでの研究実施時のマネジメント・スキルの獲得を目指す
		C	3. 心理学特別研究2の履修と博士論文の研究の遂行 ・研究の実施と内外の学術雑誌への投稿 4. 日本学術振興会特別研究員(DC2)への応募(5月頃) 5. 博士論文第1回予備審査(4～5月頃)へのオブザーバー参加 9月修了者向けの予備審査会 完成された博士論文の全体構成や、審査の観点等について学ぶ
	秋	A	1. 博士論文の研究の遂行 ・研究計画に従い実験・調査を実施、成果の内外の学会で発表、学術誌への論文投稿を行う
		B	2. 博士論文中間審査会で、博士論文の進捗と今後の研究計画について報告し、審査を受ける
		C	3. 標準3年次対象の博士論文予備審査会・本審査会にオブザーバー参加し、完成された博士論文の全体構成や、審査の観点等について学ぶ

学年	学期 モジュール		研究内容及び指導方法等
	春	A	1. 3年次の研究体制の確立 ・ 在学生オリエンテーションに参加し、3年次の学修過程（特に博士論文の予備審査会、本審査会の実施）及び修了要件について確認する
B		2. 博士論文の研究の遂行と博士論文の執筆 ・ 研究計画に従い、実験・調査を実施、内外の学会での発表、学術誌への論文投稿を行う ・ 博士論文を執筆する	
C		3. 進級時達成度評価を実施し、3年次の履修計画を立てる 心理学英語プレゼンテーション3の履修による、国際学会での発表スキルの獲得 4. 第1回予備審査会（4～5月頃）（原則、9月期修了予定者対象） 5. 日本学術振興会特別研究員（DC2、P D）への応募(5月頃)	
3 年 次	秋	A	1. 第2回予備審査会への参加(9～10月頃) ・ 当該年度内修了予定者の標準的参加機会 ・ 申請者と指導教員は修了要件の充足、予備審査時達成度評価により、獲得されたコンピテンスが基準値以上であること、論文の一部を構成する査読付き学術雑誌掲載論文数が基準以上であることを確認する
B		・ 定められた書類と博士論文(仮綴じ版)を所定の部数提出する ・ 合格した場合、指導教員が博士論文審査委員会の設置を申請する ・ 不合格の場合、予備審査を別の機会に受けなおす 2. 第3回予備審査会への参加(11月～12月頃) ・ 当該年度内修了予定者の最終参加機会 (原則として、第2回予備審査会不合格者のための機会) (合格・不合格時の事後対応は第2回予備審査と同じ)	
C		3. 博士論文審査会への参加(11月下旬～1月) ・ 当該年度内修了予定者の最終参加機会(開催日時は主査による日程調整を経て、期限内の特定の日に決定される) ・ 申請者は定められた書類と博士論文(仮綴じ版)を所定の部数提出する ・ 合格者は当該年度に博士学位を取得 ・ 提出された博士論文は、人間総合科学学術院運営委員会で論文審査委員会設置承認後、1年以内に審査委員会で合格が承認される必要がある	